第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別

「なむ」の識別

【識別対象】

1 「　　」の終助詞「なむ」
2 「　　」の助動詞「ぬ」の「　　」形＋推量の助動詞「む」
3 ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4 「　　」の係助詞「なむ」

〈見分け方〉＝「　　」

1 「　　」形＋［なむ］＝他者願望（＝あつらえ）の終助詞「なむ」
2 「　　」形＋(な)(む)＝完了・「　　」の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」
3 「　　な(む)」・「　　な(む)」・「　　な(む)」＝ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4 1～3以外＝強意の係助詞「なむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★注意すべき「なむ」

○「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

○「しなむ」の場合

「し」が「　　」と訳せる＝サ変「す」連用形→「　　　」

「し」が「　　」の意味→ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量

○「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

連用形
〜　〜　〜 ＋ **なむ** ＝ **係助詞**

○「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔例題一〕　次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

①　いと憚り多くなむ。

②　宣旨の使、ここにて死なばかへりて罪かうぶりなむ。

③　身の死なむも、もろともに見たまへかし。

④　深き心を人は知らなむ。

⑤　あはれなりつる心のほどなむ忘れむ世あるまじき。

ア　他者願望の終助詞
イ　強意の係助詞
ウ　完了の助動詞＋推量の助動詞
エ　ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞

①＝　②＝　③＝　④＝　⑤＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「君が宿にてかへらざらなむ」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あなたの所へ帰っていきたい。
イ　あなたの所へ帰っていくだろう。
ウ　あなたの所へ帰らないでいたい。
エ　あなたの家で孵化（ふか）してほしい。
オ　あなたの家で孵化するだろう。
カ　あなたの家で孵化しないでほしい。

問二　「さることはありなむや、隠いたまひてけむ」の現代語訳として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　そういうことであってほしい、お隠しになっただろうか
イ　そんなことがあるだろうか、お隠しになったのだ
ウ　そういうことであってほしい、きっとお隠しになっただろう
エ　そんなことがあるだろうか、きっとお隠しになっただろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ばや」の識別

【識別対象】

1 「　　」の終助詞「ばや」

2 接続助詞「ば」＋係助詞「や」

〈見分け方〉

1 「　　」形＋ばや（　　）＝自己願望の終助詞「ばや」

2 「　　」形＋ば・や（　　）＝接続助詞「ば」**仮定**条件＋係助詞「や」

3 「　　」形＋ば・や＝接続助詞「ば」**確定**条件＋係助詞「や」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈例題二〉　次の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを後の中から選べ。

① 久方の月の桂も秋はなほもみぢすればや照りまさるらむ

② いましばしもあらばやと思へど、明くれば、ののしりて出だし立つ。

③ 心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

ア　自己願望の終助詞

イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞

ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞

①＝　　②＝　　③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「に」の識別

【識別対象】

1　**形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2　**ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3　**完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4　**断定の助動詞「なり」**の連用形
5　**格助詞**の「に」
6　**接続助詞**の「に」
7　**副詞・副助詞**の一部　→　「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　」→「　　」

1　「　　・　　」＋に＝**形容動詞**

「　　」
「　　」
「　　」
＋**に**　の形が多い。

2　**に**　の「**に**」＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

3　「　　」形＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※　**に**＋　　の形が多い。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4　「　　　　　」＋に

- **断定**の助動詞　※参照
- **格助詞**　（「である」と訳せない）

※**断定**

○ **に**＋（助詞）＋

○ **に**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5　「　　」形＋に
- **断定**の助動詞　→　4の「※断定」と同様なので、そちらを参照のこと。
- **格助詞**
- **接続助詞**

※**格助詞**

連体形＋に　述部

※**接続助詞**

連体形＋に、～

⇒ ので／のに／ところ　で訳せる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　次のa～eの「に」の説明として、最も適当と思われるものを、後のア～オからそれぞれ選べ。

「この所を見るに[a]、憂き世ながらかかる所もありけりと、～」
「ここかしこに[b]鈴の音などを聞くにつけても、～」
「雲居遥かに[c]心を送るしるべとぞなりにける。」
「思ひしづむる時なきにし[d]もあらねば、～」
「なほ思ひ慣れにし[e]夕暮れの眺めにうち添ひて、～」

ア　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　イ　単純な接続を表す接続助詞　　ウ　形容動詞の活用語尾
エ　断定の助動詞「なり」の連用形　　オ　場所を表す格助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問四　「思へるにや。」に含まれる助動詞「る」「に」の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　「る」は自発、「に」は完了　　2　「る」は自発、「に」は断定
3　「る」は受身、「に」は完了　　4　「る」は受身、「に」は断定
5　「る」は存続、「に」は完了　　6　「る」は存続、「に」は断定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　次の二重傍線部ａ〜ｄ「に」の文法的説明の組み合わせとして、最適なものを後の中から選べ。

「あるじの使ひ[a]にて、石の帯を人に借りて、…」
「心のうち推し量る[b]に、まことにさぞ悲しからむ」
「元の帯[c]にはあらねども、むなしく失ひて…」
「手をすりて、とりてまかり[d]にけり。」

1　ａ　断定の助動詞の連用形　ｂ　接続助詞　ｃ　格助詞　ｄ　動詞の連用形活用語尾
2　ａ　格助詞　ｂ　格助詞　ｃ　格助詞　ｄ　完了の助動詞の連用形
3　ａ　断定の助動詞の連用形　ｂ　格助詞　ｃ　断定の助動詞の連用形　ｄ　形容動詞の連用形活用語尾
4　ａ　格助詞　ｂ　接続助詞　ｃ　断定の助動詞の連用形　ｄ　完了の助動詞の連用形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別

①　「〜よきは短くてあらなん。」の二重傍線部「なん」の文法的解説として、最も適切なものを次から選べ。

1　詠嘆の終助詞
2　ナ変動詞＋推量の助動詞
3　他者願望の終助詞
4　強意の係助詞
5　強意の助動詞＋推量の助動詞

②　「良かりなむ」とあるが、その文法的説明として最も適当なものを左の中から選べ。

1　形容詞「良し」の命令形＋終助詞「なむ」
2　形容詞「良し」の連体形＋係助詞「なむ」
3　形容詞「良し」の未然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋終助詞「なむ」
4　形容詞「良し」の連用形＋禁止の終助詞「な」＋推量の助動詞「む」の終止形
5　形容詞「良し」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③

「思ひなしにや、〜」の二重傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次の中から選べ。

1　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず
2　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも
3　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ
4　鬢は失せにたれば、ひたぶるになし
5　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり

④

「おはしましぬ。」の「ぬ」と文法的に同じものを、次のア〜エの中から一つ選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

⑤

次のア〜オの二重傍線部の中から、一つだけ文法的に異なるものを選べ。

ア　「〜御心も通ひぬべきを…」
イ　「〜老人御方に入りたまひにけり。」
ウ　「今宵この人々にや食はれなんと思ふも…」
エ　「男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。」
オ　「中将、言ひわづらひて帰りにければ、…」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

〔例題一〕　①イ　②ウ　③エ　④ア　⑤イ

〔例題二〕　①ウ　②ア　③イ

問一　カ

問二　エ

問三　a イ　b オ　c ウ　d エ　e ア

問四　6

問五　4

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十一講　「なむ」の識別／「ばや」の識別／「に」の識別

〔解説〕

① ラ変「あり」の**未然形**＋なむ＝**他者願望の終助詞**「なむ」

② 「良かり」は形容詞「良し」の**連用形**で、さらに「**か＋ラ変**」の補助活用。したがって**下に助動詞が付く**。よって、正解は５。

③ 問題文中「に」は、「**にや**」の「**に**」で**断定**。選択肢１が形容詞「なし」の**連体形**「なき」に接続しており、下に「**あり**」があることから、これが断定の「に」。

④ 問題文中「ぬ」は、**連用形に接続**しているので**完了**の助動詞。選択肢アの「に」が、**上が連用形**で、**下に「けり」**。よって、正解はア。

⑤ 選択肢エはナ変動詞「往ぬ」の連用形の活用語尾。他は連用形に接続する完了の助動詞。

〔解答〕

① ３　② ５　③ １　④ ア　⑤ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。